



SUBARUグループのCSR重点6領域： 人を中心とした自動車文化



基本的な考え方

「クルマは単なる移動手段ではない。」と考えます。

SUBARUは、「安心と愉しさ」といった人の「感性」を大切にし、人の心や人生を豊かにするパートナーとなる商品やサービスを付加価値としてお客様に届け、持続可能なモビリティ文化を醸成します。

重要とした理由

SUBARUグループは、人々の多様な価値観を尊重し、多様な市場価値に対応した個性的な商品を提供していくことで、お客様の選択肢を増やすことに貢献してきました。私たちは、クルマを単なる移動手段ではなく、人の想いを受け止め、それに応える「人生を豊かにするパートナー」であると考えます。「モノをつくる会社から笑顔をつくる会社へ」SUBARUグループはこれからもお客様一人ひとりの「安心と愉しさ」といった人の「感性」を大切にし、人生におけるライフスタイルやライフステージの変化とクルマを結び、人が主役の自動車文化の発展と普及を担っていきます。

▶ CSR重点6領域選定プロセス

2018年度取り組み総括

SUBARUは、「クルマは単なる移動手段ではない」と考えています。

また、この考え方は、「STEP」に込めた想いの一つに掲げている「お客様に『安心と愉しさ』を提供する」というブランドの軸にもなっているものです。SUBARUがお客様から期待されている価値は、「安心と愉しさ」、つまり安全・安心なクルマであることはもちろんのこと、運転の愉しさを感じられることだと考えています。

2018年7月に発売した新型「フォレスター」では、新開発の2.0L直噴NA水平対向エンジンに電動技術を加えた「e-BOXER」を新たに採用しました。モーターが力強くパワーアシストをすることで、ガソリン車を上回る力強い加速性能を発揮する設定とし、日常シーンでも走りが愉しめるようにしています。また、SUBARU初となる乗員認識技術「ドライバーモニタリングシステム」※1を採用しました。これは、ドライバーの居眠りやわき見運転を検知し、注意喚起をするもので、SUBARUが得意とする「予防安全」の取り組みをさらに進化させたものです。さらに、万一事故が起こったときでも、その被害を軽減するために開発した「歩行者保護エアバッグ」も標準装備し、「衝突安全」の取り組みも合わせて進化させています。


2019年4月に発表した新型「アウトバック」（米国仕様）では、「知的好奇心を刺激し、新たな発見を促すクロスオーバー」というコンセプトのもと、歴代モデルで培ってきた価値に最新の技術を組み合わせることで、「安心と愉しさ」を一層感じていただけるようにしています。例えば、エンジンは低回転域から力強いトルクを発生する2.4L水平対向4気筒直噴ターボエンジンと、直噴化により効率を高めた2.5L水平対向4気筒エンジンの2種類を用意しました。車体剛性を最適化するスバルグローバルプラットフォームと組み合わせることで、歴代モデルで定評のある動的質感をさらに向上させました。

また、運転支援システム「アイサイト」には、車線中央維持制御・先行車追従操舵制御を追加し、安全運転を支援する「ドライバーモニタリングシステム」も組み合わせることで、アクティブライフを支えるパートナーとして、安心感をさらに高めています。

今後も、「安心と愉しさ」を追求するとともに、運転支援の分野でトップクラスを目指し、開発を続けていきます。

※1： 「ドライバーモニタリングシステム」は運転者に注意を喚起するものであり、ドライバーの前方不注意や、事故を防止するものではありません。米国仕様システム名称「Driver Focus」。

関連する取り組み

- ▶ [安全なクルマづくり](#)
- ▶ [社会貢献](#) > [交通安全](#)
- ▶ [SUBARUのクルマづくり](#) 



基本的な考え方

人と人とのコミュニケーションの輪を広げ、一人ひとりのお客様および社会の声に真摯に向き合うことで、信頼・共感され、共生できる企業になります。

重要と考える理由

S U B A R Uは、企業活動を行っていくうえで重要となるステークホルダーの一つが、お客様と地域社会であると考えています。


「お客様第一」はもちろんのこと、事業を展開する地域社会においても、多くの人々にS U B A R Uは支えられてきました。S U B A R Uは、日頃のコミュニケーションを通じて、お客様には商品やサービスに対し、また地域社会には地域における企業活動に対し、信頼され共感していただくことで、共感・共生のコミュニティを形成し、企業としての持続的成長を図っていきます。

▶ [CSR重点6領域選定プロセス](#)

2018年度取り組み総括

私たちの事業は、お客様から信頼・共感され、クルマをご購入いただくことで成り立っています。また、事業活動を行うためには、地域の方々との共生が欠かせません。国内で失った信頼を取り戻すには、ステークホルダーの皆様からの声を真摯に受け止め、誠実に対応することに尽きると考えています。商品の品質はもとより、対応する部門や人・仕組みなど、業務に関わるすべてにおける品質をあげていくことを、SUBARUグループの役員・全従業員が重く受け止め、今後は全員が心をひとつにして、ステークホルダーの皆様の信頼を取り戻すために行動していきます。

関連する取り組み

- › 安全なクルマづくり
- › お客様
- › 社会貢献
- › SUBARUのクルマづくり 



S U B A R UグループのCSR重点6領域

安心

基本的な考え方

すべてのステークホルダーが「最高の安心」を感じていただける存在となります。

重要と考える理由

S U B A R Uは、クルマに求められる安心感を、クルマづくりやサービスを通して実現します。お客様が安心して長く使い続けていただける「品質」No.1を目指し、品質に関わる全プロセスを不断に見直していきます。そして、「人の命を守る」ことにこだわり、2030年に死亡交通事故ゼロ※を目指して取り組みます。他方で、地域で操業する製造業として地域社会にもS U B A R Uなら安心とさせていただくこと、またS U B A R Uグループで働くすべての人々が安心して働け、かつ、安全な職場環境をつくることも不可欠です。さらには、交通事故などクルマに関わる社会課題の解決にも貢献していきます。S U B A R Uは、お客様・地域社会・従業員をはじめとするすべてのステークホルダーにとって、「最高の安心」を感じていただける企業となることを目指していきます。

※S U B A R U乗車中の死亡事故およびS U B A R Uとの衝突による歩行者・自転車等の死亡事故をゼロに

▶ CSR重点6領域選定プロセス

2018年度取り組み総括

すべてのステークホルダーが「最高の安心」を感じていただける存在になるという考え方のもとCSRを進めています。2018年度は大規模なリコールなどが発生する結果となったことを、SUBARUとしても重く受け止めています。そのため、2018年度は「品質最優先」の考えに立ち戻り、品質に関わる全プロセスを不断に見直しました。

一連の完成検査問題については、完成検査工程の設備の改善、完成検査員への教育の再徹底、人員配置の見直し、組織変更など、実行可能な対策はすべて行ってきました。生産ラインも再発防止策の効果検証を行い、これらの対策に実効性があることを確認しています。

しかし、「品質改革」は、不適切事案にとどまるものではありません。2019年1月には、調達した部品に不具合が発生し、生産ラインを停止する事態となりました。これは製造業としては非常に厳しい決断でしたが、何よりも品質が最優先であり、お客様におかけするご迷惑を最小限に抑えるために実施したものです。SUBARUのクルマに安心してお乗りいただくためには、「高品質であること」が大前提です。また、それだけではなく、製造・開発・経営をはじめ、業務に関わるすべての品質を高めていく必要があります。

一方、SUBARUの安全性能に関して、第三者機関から高い評価を獲得しています。例えば、米国で販売している2019年型「アセント」、「アウトバック」、「レガシィ」、「クロストレック」、「インプレッサ（セダン）」、「インプレッサ（5ドア）」、「WRX」、「フォレスター※1」の8車種（いずれもアイサイトならびにハイビームアシスト機能付きステアリング連動ヘッドライト装備車）が、IIHS（道路安全保険協会）によって行われた2019年安全性評価において、「トップセイフティピックプラスTSP+」を獲得しました。これらの8車種は、要求されるすべての耐衝撃性能試験において最高評価の「Good」、前面衝突予防性能試験においても最高評価「Superior」を獲得しています。また、2018年7月にフルモデルチェンジをした新型フォレスターが、国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）が実施する、2018年度予防安全性能アセスメントにおいて、最高ランクであるJNCAP「予防安全性能評価ASV+++（エー・エス・ブイ・トリプルプラス）」を獲得しました。これらは、SUBARU車の事故リスク低減から衝突被害低減まで、幅広い領域における安全性能の高さが改めて証明されたものだと考えています。

2030年に死亡交通事故ゼロ※2を目指して、さらに安全性能を高める努力を続けていきます。そして、「共感・共生」と同様、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の信頼を回復する行動を、今後も引き続きグループ一丸となって取っていきます。

※1： 2019年1月以降の生産車

※2： SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車等の死亡事故をゼロに

関連する取り組み

- ＜ 安全なクルマづくり
- ＜ 人材＞労働安全衛生
- ＜ 品質
- ＜ SUBARUのクルマづくり □



SUBARUグループのCSR重点6領域： ダイバーシティ



基本的な考え方

多様な市場価値を尊重した商品の提供と、SUBARUグループで働くすべての人々の多様な価値観の尊重と反映がSUBARUグループのダイバーシティと考え、推進します。

重要と考える理由

今日、社会的要請として、従業員のダイバーシティや多様な働き方が広く企業に求められています。一方で、SUBARUは、今後とも多様な市場価値を尊重し、お客様の選択肢を増やすことに貢献する商品を提供することが、企業の持続的成長にもつながると考えています。そのためには、SUBARUグループで働く人々の視点にも多様性が求められます。このように、SUBARUにとってのダイバーシティは、「商品のダイバーシティ」と「従業員のダイバーシティ」という、二つの重要な意味を持っています。SUBARUは、「商品のダイバーシティ」を追求すると同時に、「SUBARUグループで働くすべての人々のダイバーシティ」を推進していきます。

▶ [CSR重点6領域選定プロセス](#)

2018年度取り組み総括

2018年度は、国内では水平対向エンジンと電動技術を組み合わせた新型「フォレスター」、北米ではSUBARU初となるプラグインハイブリッド車「クロストレックハイブリッド」を発売し、SUBARUがこれまで培ってきた高い動的質感と時代に求められる優れた環境性能を両立する、いわば「商品のダイバーシティ」に取り組んでいます。

また、ダイバーシティの推進においては、「女性活躍推進」「障がい者雇用推進」「高齢者再雇用推進」「外国籍従業員の雇用推進」を重点テーマに掲げ、なかでも「女性活躍推進」を最重要課題として取り組んできました。「発揮能力による実力値での登用を前提として、2020年までに女性管理職数を、登用目標を定めた2014年時点の5倍とする」ことを数値目標に掲げて進めており、この目標は予定通り達成できる見込みです。2025年に向けて「女性管理職数を2014年時点の12倍以上」とする新たな目標を設定し、女性管理職育成に向けた取り組みをさらに強化していきます。

そして、役員体制においても、業務執行に対する経営の監督機能強化のため、第88期定時株主総会の承認を得て、社外取締役を従来の2人から3人へ増員し、取締役会の3分の1（9人中3人）を社外取締役が構成する体制としました。併せて、SUBARU初の女性役員（社外監査役）を登用し、ダイバーシティ経営も推進しています。

今後も、SUBARUは、商品のダイバーシティ」を追求すると同時に、「SUBARUグループで働くすべての人々のダイバーシティ」を推進していきます。

関連する取り組み

＜ 人材＞ダイバーシティ

商品のダイバーシティ

＜ 新型フォレスター

＜ クロストレック ハイブリッド



基本的な考え方

S U B A R Uのフィールドである「大地と空と自然」を将来世代へ伝承するため、企業活動全体で環境に配慮していきます。

重要と考える理由

S U B A R Uは、2017年度に環境方針を改定しました。その中で「大地と空と自然」をS U B A R Uのフィールドと定め、自然との共生を目指す取り組みへの注力を掲げました。これは、自動車と航空宇宙事業を柱とするS U B A R Uの事業フィールドである「大地と空と自然」を大切に守っていきたいという想いを込めたものです。豊かな「大地と空と自然」が広がる地球環境があつてこそ、社会とS U B A R Uの持続性が可能になるという考えのもと、オールS U B A R Uで地球環境保護に取り組んでいきます。

▶ [CSR重点6領域選定プロセス](#)

2018年度取り組み総括

気候変動への取り組みは最も重要なものの一つと認識し、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃未満に抑える」というパリ協定の趣旨に、引き続き貢献していきます。

S U B A R Uグループは、直接排出するCO₂（スコープ1および2）について、2030年度に2016年度比30%削減の目標を掲げ、2021年度からの取り組み計画である「環境アクションプラン」の策定を進めています。また、取り組みを一部前倒しする形で2020年度までに年間排出量のおよそ3%に相当する約2万t-CO₂の削減に着手しました。

他方、自動車のライフサイクル全体を俯瞰した場合、とりわけ自動車の使用にともなうCO₂排出量の削減は極めて重要であり、中長期的な視野で自動車の電動化は一層進むものと考えます。

S U B A R Uは、社会の期待の変化、お客様のニーズ、環境規制への対応、適正な利益の確保等を実現するための技術戦略・商品戦略を引き続き検討し、社会とS U B A R Uグループの持続可能な成長を実現していきます。その一環として、2019年6月に、トヨタ自動車株式会社と、中・大型乗用車向けのEV専用プラットフォーム、およびCセグメントクラスのS U VモデルのEVを共同で開発することに合意したことを公表しました。今回のトヨタ自動車株式会社との合意に伴い、従来独自開発を中心に進めてきたEV開発を、今後は共同開発として推し進めていきます。これにより、技術・開発・調達などの面で更なる効率化を図ると共に、お客様にとって魅力あるEVの実現を目指していきます。

関連する取り組み

- ▶ 環境
- ▶ リスクマネジメント▶事業活動に伴うリスク
- ▶ 社会貢献活動▶環境



S U B A R UグループのCSR重点6領域： コンプライアンス



S U B A R UグループのCSR重点6領域

コンプライアンス

基本的な考え方

法令や社会規範を守って業務が遂行できている、そしてコンプライアンス重視・優先の考え方がS U B A R Uグループで働くすべての人々に浸透し、実行されている企業になります。

重要と考える理由

S U B A R Uは、業務遂行において社会規範への意識が欠如していたことや社内ルールの不備、また業務遂行に関連する法令の理解が乏しかったことなどへの反省から、意識改革の必要性を痛感し、徹底した組織風土改革を推し進めています。お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼され、共感される存在となることを目指し、S U B A R Uグループ一丸となってコンプライアンス重視、優先の取り組みを進めていきます。

› [CSR重点6領域選定プロセス](#)

2018年度取り組み総括

コンプライアンスの実践は、社会で事業活動をする前提条件となる最重要課題の一つであり、それを怠るとお客様や株主様、お取引先様などのステークホルダーの皆様にご迷惑をおかけし、事業存続も危ぶまれる事態となることを、一連の完成検査における不適切事案によって、SUBARUグループの全員が痛感しています。

そのため2018年度は、全社一斉での「自分の仕事総点検」活動の実施や、「従業員コンプライアンス相談窓口」の更なる周知の実施および対応の充実、SUBARUグループ共通のコンプライアンスツールである「コンプライアンスマニュアル・エッセンシャル版」の新規発行、役員が講師となった「コンプライアンス研修」の実施など、様々な施策を打ってきました。「二度と繰り返さない」「絶対に忘れない」ことを全員が肝に銘じ、気を緩めることなく、引き続きコンプライアンスの実践について、不断の努力を継続していきます。

関連する取り組み

- ▶ マネジメント>コンプライアンス
- ▶ 環境>環境マネジメント>環境コンプライアンス
- ▶ 環境>汚染の予防